

# Principal Correspondence

## 哲学はロックだ！

季節は早いもので夏休みに入りました。コーラスフェスティバルが随分前の事に思えますが、ちょっと振り返って原稿を書いています。

コーラスフェスティバルでは幼稚園時代の可愛い姿を思い出させる場面あり、高度なコーラス、ミュージカルナンバー、懐かしい唱歌あり、さらにプロの音楽の先生方の発表など、それぞれに美しい歌声を聴かせてもらい、幸せな時間を過ごすことができました。

そして最後の私の挨拶で「皆さん！今日（6月29日）は何とビートルズの日です。」と嬉しさいっぱい述べたところ、「オーッ」と言う反応が返ってくるかと思いきや、全く無反応！ですべりまくり、思わず台詞を忘れてしまいました。世代の差をつくづくと感じさせられました。皆様の世代は「クイーン」でしょうか？



しかし、ポップミュージックのロックバンドの王者はやはりビートルズでしょう。当時、長髪で不良っぽい若者バンド、反抗のシンボルと言われたビートルズの曲も、今や世界中の音楽の教科書に載っています。200年もたてばクラシック音楽となり、シューベルトやモーツァルトと並んで評価されるかもしれません。

『世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか？』（光文社、山口周著）と言う面白い本があります。著者曰く、「哲学とはロックンロールである」。

もともと哲学はその折々の時代を支配するシステムや宗教や制度への「疑問」から始まっています。私の学生時代のうろ覚えで恐縮ですが、ヨーロッパの宗教改革の元となった、キリスト教社会への疑問を投げかけたキルケゴールや、続いて実存主義の流れとなったニーチェや20世紀のサルトルなどは、社会に課題意識を持ち、その時代その時代を支配する考えに疑問を突きつけていた例だと思えます。

山口氏は「ロックンロールも、その時代その時代の空気に反抗し、哲学のように論理的ではないものの（エモーショナルに情緒的ではありませんが）疑問を突きつける点で同じ根っこである」と言います。一見難しそうな哲学とロックが同じ根っここと言うのは面白いですね。

そこで学校の話に戻ります。夏休みの自由研究はとても大事です。課題は様々。普段不思議だなあとか疑問に思うこと、つまり「課題に気付くこと」は創造性の第一歩。「何を調べるか？研究の目標を設定すること」は第二歩。それを「どうやって調べるか？どう情報を集めるか？実験するか？アイデアを考えること」は第三歩。このワン・ツー・スリーのステップが大事です。まずは課題を探しましょう。きっと学校で培った豊かな感受性が役に立つことでしょう。

# Principal Correspondence

## 学力を高めるための勉強法

暑い夏が続きますが、夏は子どもの季節。日頃できないたくさんの体験(体験は好奇心・探究心を育み 21 世紀型学力へのモチベーションになります)をするために、宿題などの学習時間を効果的に、しかもしっかりと身に付けたいものです。



そこで脳科学を踏まえた秘訣をひとつ

- ①コツコツ毎日・・・一週間に一日か二日まとめて4時間ずつ勉強するより、毎日1時間コツコツ勉強したほうが記憶の定着率は高い。

いわゆる一夜漬けは翌日の試験には効きますが、翌々日になるとコツコツやってきた子にはぐっと引き離されてしまうというデータがあります。

- ②暗記は寝る前にやる・・・寝る子は育つと言うのは本当で、寝不足の頭に知識を詰め込んでも、定着はしません。寝ることによって定着するというデータがあります。算数など思考力や推理力を必要とする勉強は、勉強のはじめのほうにやり、年号、漢字、英単語のような暗記を必要とするものは寝る前にやるのが効果的です。



しかし、その後にゲームをやったりテレビを観たりすることは定着を妨げるので、寝る前にもう一度、10分だけでも暗記物のおさらいをするのが効果的です。

とにかく睡眠は脳の発達に大事です。くれぐれも睡眠不足にならないように・・・。

- ③入力を繰り返すより出力を繰り返すほうが定着しやすい・・・参考書を繰り返し熟読するのも大事ですが、記憶の定着のためには、大きな声に出して読む。問題集を繰り返しやるほうが効果的と言われています。

感性豊かな少年少女期の夏休みの体験活動は、かけがえのないもので一生を左右します。そのためにも効果的な勉強法で、しっかり両立させていきましょう。

